

ルイス・アピオラーザ博士による「世界の林木育種の最新動向」に関する講演会の概要

日 時: 平成 21 年 8 月 19 日(水) 15:00～16:00 (受付は 14:30 開始)

場 所: 独立行政法人森林総合研究所 2F 大会議室(茨城県つくば市松の里1)

参加対象: 林業・林産業セクターの研究者、行政担当者、民間企業、苗木生産者

参加方法: 電話(0294-39-7013)またはファックス(0294-39-7306)による事前申込 海外協力課宛

申込期限: 8 月 12 日(水)、参加無料

使用言語: 英語(講演)

プログラム:

15:00-15:05	開会挨拶
15:05-15:45	講演 ルイス・アピオラーザ博士(ニュージーランド・カンタベリー大学上席講師)
15:45-15:55	質疑・意見交換
15:55-16:00	閉会挨拶

講演者: ルイス・アピオラーザ (Dr. Luis ApioIaza) ニュージーランド・カンタベリー大学上席講師。

1967 年、南米チリ生まれ。

チリ大学森林科学部卒業後、ニュージーランド・マッセイ大学において、博士号「森林遺伝子・林木育種」取得。

2005 年より、ユフロの育種部門のコーディネーターを務めており、ラジアータ・マツ育種会社の技術委員会のメンバー及び部会委員長。

2006 年より、ニュージーランド・カンタベリー大学上席講師。

講演概要:

1. 「NZ と世界の林業と林木育種の動向」
2. 「ラジアータ・マツの経済的育種の目標」

収入の増加とコストの削減あるいはその両方の実現により、林業における収益性を増加させることが、育種事業の目標である。利益は複数の形質に依存する。よって育種家はどの形質に取り組むべきか考え、それぞれの形質の相対的な経済的重要性を理解しなくてはならない。

この講演では、二種類の木材製品(構造材と造作材)について、異なる経済的アプローチ(最新の確率論に基づいたバイオエコノミックモデルとヘドニックモデル)を用いていかに育種目標を定めるかを紹介する。チリと NZ での製材についての研究結果と製品価格の情報をを用いて、それぞれの育種目標形質がどのように寄与するかを推定した。

構造材(MSG6 から MSG12)について小さい末口径・ヤング係数・木材密度・節のサイズ、またアメリカ市場向けの造作材について小さい末口径・樹幹形・節間長がどのように影響するかを議論する。



● JR常磐線(牛久駅)から

JR常磐線「牛久駅」駅西口、4番のり場から関東鉄道バス「谷田部車庫(47)」、「つくばセンター(41)」「筑波大学病院(42、42A)」の各路線に乗り、「森林総合研究所」で下車。所要時間は約 10 分。()内は系統番号。

牛久駅 路線バスの時刻表 (<http://www.kantetsu.co.jp/bus/rosen/timetable/tsukuba.html>)

● つくばエクスプレス(つくば駅)、高速バス(つくばセンター)から

講演会の時間帯にはバスがありませんのでご注意ください。 タクシーでの所要時間は約 20 分、約 10km。



● お車の場合(常磐自動車道と圏央道)常磐自動車道「つくばJCT」から「圏央道」へ

- 「圏央道」「つくば牛久IC」から国道6号バイパス(国道408号、牛久市方向)へ
- 国道6号バイパス「大井北交差点」を牛久市方向へ左折、国道408号へ
- 国道408号を牛久市方向に約 1kmで「森林総合研究所」